

○事業所名	のぞみ親子相談室（児童発達支援事業）			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43名	(回答者数)	42名
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月25日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月8日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ほとんどが心理士なので、発達や心理の専門的な視点で検討し療育を行っている。	子どもの発達段階や特性を考慮しながら、子どもの状態に合った活動を工夫している。	話し合いの時間を今以上に作っていくようにしたい。
2	親子で通うスタイルなので、保護者の相談の場がしっかりあり、丁寧に相談を行っている。	保護者が安心できる相談の場を心がけ、気持ちを共有しながら助言を行うようにしている。	家族支援としてさらに深く相談に応じられるようにしていきたい。
3	京都国際社会福祉センターの中にある相談室なので、研修の場が多く、発達・援助に関して研鑽を積む機会が豊富である。	研修で色々な関わり方を学ぶことで、スタッフ自身が支援方法のバリエーションを広げるように務めている。	研修で学んだ知識を、具体的に自分の中におとしこんでいくために学びを積み重ねたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	遊びは多面的に発達を促す活動なので、遊びの意味や療育者の視点がパツと分かりにくい面があるため、しっかり遊びの意味を説明していくことが必要だと思われる。	療育が家や園で遊ぶこととどう違うか、専門的な視点からどんな関わりをしているのかを説明しないと違いが分かりにくい面がある。	遊びの中で、運動、認知、言語、対人関係などをどう育んでいるか、さらに具体的な説明を心がけていきたい。
2			
3			

○事業所名	のぞみ親子相談室（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月25日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月8日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ほとんどが心理士なので、発達や心理の専門的な視点で検討し療育を行っている。	子どもの発達段階や特性を考慮しながら、子どもの状態に合った活動を工夫している。	話し合いの時間を今以上に作っていくようにしたい。
2	親子で通うスタイルなので、保護者の相談の場がしっかりあり、丁寧に相談を行っている。	保護者が安心できる相談の場を心がけ、気持ちを共有しながら助言を行うようにしている。	家族支援としてさらに深く相談に応じられるようにしていきたい。
3	京都国際社会福祉センターの中にある相談室なので、研修の場が多く、発達・援助に関して研鑽を積む機会が豊富である。	研修で色々な関わり方を学ぶことで、スタッフ自身が支援方法のバリエーションを広げるように務めている。	研修で学んだ知識を、具体的に自分の中におとしこんでいくために学びを積み重ねたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	遊びは多面的に発達を促す活動なので、遊びの意味や療育者の視点がパツと分かりにくい面があるため、しっかり遊びの意味を説明していくことが必要だと思われる。	療育が家や学校で遊ぶこととどう違うか、専門的な視点からどんな関わりをしているのかを説明しないと違いが分かりにくい面がある。	遊びの中で、運動、認知、言語、対人関係などをどう育んでいるか、さらに具体的な説明を心がけていきたい。
2			
3			